

これがオススメ! 読み聞かせ本

低・中学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんのお本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

大昔の生き物の中で、子どもたちに人気なのが恐竜です。映画「ジュラシック・パーク」では迫力ある恐竜が登場し、博物館では、本物の恐竜の化石を見ることが出来ます。

今回は、恐竜の仲間が鳥になったという、科学絵本を紹介したいと思います。

読み聞かせの前に、子どもたちに、「鳥になった恐竜がいるよ」と話すと、とても驚きます。

絵本には、羽毛の生えた小さな恐竜が進化する環境や様子、恐竜と鳥の骨や足のつきかたが似ていることなどが、わかりやすい言葉で書かれています。

恐竜の皮膚の色は、長い間想像の世界でした。ですが、よい状態の化石が発見され、最新の技術で羽の色が推定できるようになりました。羽毛恐竜アンキオルニスの頭頂部と頬には、赤



とりになった きょうりゅうのはなし 改訂版

大島英太郎・作
(福音館書店)

いワンポイントの模様があつたというのです。研究者たちは、今日も新しい発見をしているかもしれません。

科学絵本は、たくさんの不思議の入り口です。10月15日は「化石の日」です。各地の博物館がイベントを行います。学校でも、古生物の謎を解く、読み聞かせはいかがでしょうか。本のテーマに合わせ、図書室に関連の本コーナーを設けることもおすすめです。

著者紹介



41号からは、須長和子先生に、読み聞かせの本についてご紹介いただきます。

須長 和子 ●すなが・かずこ 1953年生まれ。栃木県在住。トキワ松学園女子短期大学(現横浜美術大学)卒。図書館・小学校での読み聞かせボランティアの代表を20年続ける。現在は児童養護施設勤務。日本子どもの本研究会会員、日本児童文芸家協会会員。